



第⁹⁵号

2011 / 12

トメ市

車掌のお仕事

■車掌の仕事といえば、ドアの開け閉め、車内放送、切符の販売、案内などが主な業務です。ように列車の操縦以外は、車掌の仕事であり、車掌はその列車の“長”すなわち“列車長”（業界用語で、レチ）なわけです。

■運転士が定められたルールに従って、列車を運転、駅に停車させる。駅に着いたら車掌が停止位置を確認し、ドアを開ける。車掌は時刻が来るとドア

を閉め、運転士に出発合図を送る。これが通常の列車の運転の流れです。非常に単純な流れです。

■でも逆に単純過ぎるがゆえに、ミス誘発するのが人間。その対策として実施されているのが、“指差確認喚呼”。

■指差確認喚呼とは、体を動かし声を出すことによって、意識レベルを向上させ、ミス（ヒューマンエラー）を少なくさせるものです。これは、旧国鉄が開発しそうで、今では様々な企業で取り入れられているそうです。

■車掌で例を出すと、まず、駅停車時に信号機を指差し、現示してる信号を喚呼（進行し



てもいい現示なら、信号よし！）。次に乗務カードを指差し、発車時刻を確認（何時何分何秒！）

発車時刻が近づくと、発車時刻の10秒ほど前にドアスイッチの閉ボタンを押し、ドアを閉め、ドアが開いていることを示すランプ（側灯）が消えたことを確認するため、側灯を指差し、（ドアよし！）と喚呼。自分が車両に乗り込んだら、運転士に発車オーライの合図である、ブザーを1秒ほど押すと、運転士が列車を起動させ、出発です。

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内1-1-15(禁酒会館3F) TEL&FAX 086-232-5502

E-mail racda_okayama@ybb.ne.jp

RACDA

検索



NPO法人 公共の交通ラダ
RACDA

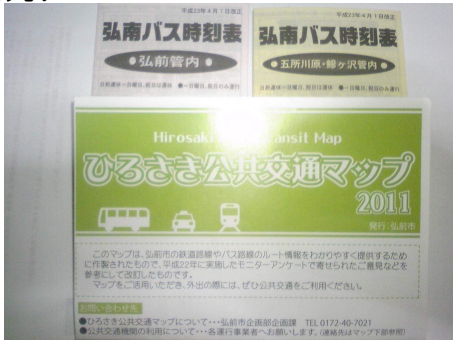
詳しくは http://wiki.livedoor.jp/racda_okayama/ まで



バスマップサミット2日目・弘前市内巡検プログラムレポート

バスマップサミットの2日目は、「弘前市内巡検プログラム」ということで、弘前市内の路線バス・鉄道に乗車して、よい点や改善点などを報告してきた。そのときの模様をレポートする。

9:00巡検説明会…巡検実施に当たっての注意事項などを聞き、必要となる「ひろさき公共交通マップ」と「弘南バス時刻表」を受け取り、いざ出発!



9:50弘前駅前から小栗山(弘前営業所)行に乗車…バスは貸切格下げタイプで、なんと後部サロン仕様!!路線としては弘前市街地南部に至るもので、途中で弘前大学があるが、この日は日曜だったので学生の利用は皆無。全区間通しでも自分を入れて10人そこそこ。約20分ほどで終点・弘前営業所着。

10:20すぐに折り返し。今度は別の車両に乗車。営業所の一角に待合室と自転車置場がきちんと整備されており、一応は評価できる。そして乗車から2つ目の「千年公民館前」で下車。この停留所のすぐ近くに弘南鉄道大鰐線の小栗山駅があり、バスと鉄道の連携具合をチェック。しかし、連携はとられておらず、本数もバスが圧倒的に多い。おまけに小栗山から弘前市中心部までバス路線と大鰐線がほぼ完全に並行しており、バスが有利に働いている。



10:49小栗山駅から大鰐線に乗車し、弘高下駅まで移動。ここから別のバス路線に乗車するため徒歩で移動するが、その途中で同行者が

「ラーメンでも食べよう」ということで「桔梗野」停留所近くのラーメン店に入り、手打ち塩ラーメンで腹ごしらえ。

11:26「桔梗野」停留所から「青森銀行前」まで乗車。「桔梗野」停留所は、書店と自動車ディーラーの前に設置されているものの、歩道を歩いていると停留所の存在に気づかない。せめてポールの形状を工夫できないものか…。車内は中心部へ向かうためか、わりと多くの利用者があった。



11:33「青森銀行前」で下車。バスマップサミット会場の弘前市立観光館まで徒歩で移動する途中に、国の重要文化財に指定されている旧第五十九銀行本店本館(青森銀行記念館)が無料公開されていたので、館内を見学。その後、会場に帰着。

感想：マップがないとどこを走っているのか、という経路で走るのか、特に自分みたいに初めて弘前を訪れた客や観光客などはバスを使うのをためらってしまう。肝心の弘前駅前のバス乗り場にこれがないのはマイナス要因だと思った。一方で、観光客を呼び込む対策も行っており、JR東日本が発売している「津軽フリーパス」は弘前を中心としたフリーエリアの普通列車普通車自由席・バス路線が2日間乗り降り自由で2,000円となっており、専用のガイドブックとフリーパス用にアレンジされた時刻表が交付される。今回のバスマップサミットでは、この「津軽フリーパス」が非常に役立った。次回、プライベートで弘前を訪れる機会があれば、じっくりバスに乗ってみようと思った。(石井孝幸)

次回バスマップサミットは札幌市での開催です。(開催時期未定)